

多くの情報集め判断

バスケットボールBリーグチェアマン

◆ 島田 慎二さん



新聞紙の手触りが好きだ。読んだ記事は全てペンでチェックをつけている。「受験勉強」のような感覚で、社会、政治、経済など、各方面に目を通し、ポイントを押さえて頭の中に入れてる。

新聞はオピニオンリーダーの役割もある。社説などで各社が主張するように、私もチェアマンとして、リーグ運営についての意思を明確に示したい。リーグは2026年からの改革で、

見出しでおおまかな内容が理解できるので、記事を読んで読み進めなくても多くの情報を一瞥し「面」で吸収できるのかもしれない。毎日の積み重ねは自身の知識や意識のベースになった。Bリーグトップとしての意思決定など、時代背景の把握や予測が必要となる際、間接的に生きていると思う。

信ぴょう性の高さも新聞の強みだ。インターネットや交流サイト(SNS)だけでなく十分な情報は得られない。例えば選挙での投票先は自分で考え、判断する必要がある。そのためには多くの情報を集めることが重要で、特に若い世代には新

聞も、新たなターゲット

しまだ・しんじ 1970年生まれ。新潟県出身。起業家・経営者として、法人向け海外旅行会社、海外出張専門の旅行会社、コンサルティング会社を創業した経歴を持つ。2012年から20年まで、千葉ジェッツふなばしの運営会社の社長や会長を務める。Bリーグでは理事、副理事長を経て、20年からチェアマン。25年9月、日本バスケットボール協会の会長に就任。

▲10月15日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

島田慎二さんにとって、新聞はどんな存在になっていますか？本記事を受けて、あなたの考えをまとめてみましょう。

